

## 日本鉄鋼協会記事

### 理 事 会

**第1回委員会** 開催日：4月5日。出席者：中野会長  
ほか41名。

- 1) 編集委員長委嘱の件  
堀川一男君（理事・日本鋼管技研）を委嘱することを決定。
- 2) 表彰奨励選考分科会委員委嘱の件  
浅田，小谷，佐藤各理事を委嘱することを決定。
- 3) 特別資金運営委員会常任委員および委員委嘱の件  
常任委員 俵信次君  
委員 吉崎，長谷川各副会長，三島，山岡各前会長  
堀川編集，吉田企画，盛研究各委員長，石原会計分科会主査，佐藤理事（委員長：会長）  
以上委嘱を決定。
- 4) 支部長交代の件  
東北支部長  
新任 野田郁也君（新日鉄・釜石）  
退任 斉藤恒三君（東北大・選研）  
中国四国支部長  
新任 中園長年君（日新製鋼・呉）  
退任 末光秀雄君（日新製鋼・本社）  
東海支部長  
新任 武田喜三君（新日鉄・名古屋）  
退任 矢島悦次郎君（名古屋工大）  
以上交代を承認。
- 5) 支部活動に関する件  
各支部より事業および決算報告があつた。

### 企 画 委 員 会

**第1回委員会** 開催日：4月13日。出席者：吉田委員長，ほか19名。

- 1) 鉄鋼業の将来に対処するため本会事業の再検討について  
アンケートを求めて検討することになった。出す範囲，内容については次回に諮る。
- 2) 欧文誌合併問題検討委員会（仮称）設置の件  
日本金属学会の欧文誌と合併する案を検討するため標記の委員会を設置する予定で，委員として企画委員会より岡整理事，桑原委員がメンバーとして加わる。
- 3) 47年度 JIS 関係原案作成受託の件  
工業技術院からの原案委託費  
金属材料のレラクセーション試験方法ほか3件  
日本規格協会からの原案作成協力費薄  
鋼板の規格体系調査ほか2件  
以上報告があつた。

### 編 集 委 員 会

**第2回和文会誌分科会** 開催日：4月12日。出席者：  
田中主査，ほか8名。

1. 16件の論文の報告があつた。
2. 鉄と鋼第58年第10号掲載の論文を選定した。
3. 第6回加工関係の特集号は中村，阪部，吉谷，赤松委員に企画を依頼することになった。
4. 書評を2件依頼することになった。

**第2回欧文会誌分科会** 開催日：4月24日。出席者：  
橋口隆吉主査，ほか11名。

1. 10件の論文について審査報告が行なわれた。
2. レポート（技術報告）は刷り上り15ページを厳守する。しかし鉄鋼協会の年間活動報告を述べたレポートはその限りではない。

### 共 同 研 究 会

**熱経済技術部会** 開催日：4月12～13日。出席者：山内部会長，ほか64名。

発足以来第50回を迎え，住友金属鹿島製鉄所において記念大会として開催された。部会に対し功労の多かつた方々や，特別講演者を招いた。

特別講演は，①「鹿島製鉄所の建設と操業について（住金・新野建設本部長），②「将来のエネルギー需給の展望」（新日鉄・田部常務）の2件が行なわれた。従来の統一議題に代えパネル討論会「最近の加熱炉の問題点と対策」が催され，燃料転換，熱量原単位，品質，作業性・計装その他に関し活発な討論が行なわれた。自由議題としては，加熱炉，ブタンガスへの切替え，熱風炉の改造や振動燃焼，その他についての検討結果が発表された。一般報告では定例報告事項に加え，耐火物分科会の当部会への報告「均熱炉のタイルレキュペレーターチューブについて」があり，所期の目的を果たした現時点で分科会活動の拡大が意図されていること，熱勘定方式関係 JIS 見直し審議経過などが報告された。

**耐火物分科会** 開催日：3月31日。出席者：吉田主査ほか22名。

今回で第11回を数えるが，当分科会では当初より一貫して熱経済技術部会より提出されたテーマ「均熱炉のタイルレキュペレーターチューブについて」を広範囲に検討してきたがこのほどそれがまとまり報告書が出された。次のテーマの一つとして連続加熱炉のスキッド，サポートライニングに関する諸問題の検討を取りあげることとしあらかじめ提出されたアンケートの回答結果の発表が行なわれ，それに引きつづき討論が行なわれた。

当分科会のこれまでの運営は親部会からのテーマ解決を主眼として考えられてきたがそれが終了した現時点で活動の拡大が強く要望されたのでまず各社耐火物関係の組織およびその運営を詳細に検討した。これにもとずき委員構成を各社各事業所1名代表制に切替え，テーマも

従来の圧延に加え、製鉄、製鋼その他の全プロセスを包含させて考えてゆくこととした。しかるべき手続を経て早急に運営を軌道に載せてゆくこととした。

## 標準化委員会

**SCI分科会** 開催日：4月13, 14日。出席者：川村主査，ほか6名。

ISO/TC17/SCI 第6回ミラノ会議のための準備資料の作成 No.

### (1) ISO Recommendation の改訂

すでに ISOR として制定されている C(燃焼重量法) Si, Mn(吸光光度法), S(燃焼ほう酸ナトリウム滴定法の改正の要否を検討し対策を立てた。

### (2) Draft proposal について

Si(吸光光度法) S(重量法, 容量法, 高燃法) Low C, Cr(電位差滴定法, 容量法, 吸光光度法) Ni(重量法, 吸光光度法) Mo(吸光光度法) V(吸光光度法)の各規格について日本コメントの再確認と、各国コメントに対する日本の態度、参考として提出すべき資料など日本の最終意見をまとめ出席資料としてのまとめを行なった。

**SC4分科会** 開催日：4月21日。出席者：徳梅幹事，ほか8名。

ISO/R898 の改訂

R898(ボルトの機械的性質)の改訂のために会議が開かれるので、材質に関する事項についてのみ検討を行ない日本コメント案を作成した。

**SC4分科会** 開催日：3月23日。出席者：清水主査，ほか9名。

### 1. ISO/TC17/SC4 第14回会議の対策

#### (1) 日本コメント案の作成

1282 E(バルブ鋼), 509(析出硬化型ステンレス鋼), 514 E(ベアリング鋼), 505(冷間引抜鋼)について検討し、コメントを作成した。

#### (2) 工具鋼について

ISO の分類に従い、JIS 規定鋼種のうち量的に多い鋼種鋼種を採用し、化学成分、熱処理条件、かたさ値は、JIS 通りの値で提案することにした。

**SC4分科会** 開催日：4月6日。出席者：清水主査，ほか14名。

### 1. 第14回 ISO/TC17/SC4 会議の対策

#### (1) 517(冷間圧延, 押出鋼)のコメント案の作成

リスド鋼の許容変動値の廃止、各種熱処理および加工条件による機械的性質の適正化、バンド値の修正などを骨子とするコメント案の作成を行なった。

**SC12分科会** 開催日：3月21日。出席者：三佐尾主査，ほか7名。

### 1. 第5回 ISO/TC/SC12 会議の対策

5月15~19日開催の SC 12会議で審議されるつぎの原案について検討を行ない日本コメント案を作成した。

- 92 E (一般用, 折曲げ用, 絞り用亜鉛鉄板)
- 99 E (構造用亜鉛鉄板)
- 93 E (再圧延用熱延コイル)
- 94 E (構造用熱延薄板)

e. 95 E (構造用冷延薄板)

f. 78 E (厚さ許容差の SOA 提案)

特殊鋼分科会 開催日：4月21日。

### (1) 六角鋼の標準寸法

再度ねじ工業協会、みがき棒鋼工業組合に実状調査を依頼することにした。

(2) SCr4H, SCM5H, SCM3H, SNCM23H の Hバンドの修正

Hバンド修正小委員会の決定に従ったが SCr4H, SCM5H 一部を再修正した。

### (3) 機械的性質と熱処理温度

強度と熱処理温度との関係に矛盾があつた SCr, SCM についての修正案を作成した。

### (4) 追加, 廃止鋼種について

SNCM7 の廃止, SMn4 の追加について次回までに各社検討しておくことにした。

### (5) 改正草案の作成

以上の結果にもとづき SC 材, H 鋼, 合金鋼の改正草案を神鋼, 三菱, 山陽特殊の3社に依頼した。

鋼管分科会 開催日：4月19日。出席者：桑原主査，ほか13名。

JIS 鋼管規格の改訂検討

さきに答申した鋼管 JIS 改正案に対して使用者側からのつぎの要望事項について協議した。

- 低温用鋼管に 2mmV 衝撃試験の採用
- ボイラ用鋼管にかたさ試験の追加およびビート盛上りの程度の制限
- SGP, STPG のロットの大きさの修正
- ステンレス鋼管の記号, 耐食性などをステンレス鋼材規格に揃える。
- 鋼管の規格体系について

機械試験方法・SC6 分科会 開催日：3月22日。出席者：吉沢主査，ほか11名。

(1) シャルピー衝撃試験機総合誤差の検査方法(案)の審議

とくに前回問題となつた試験機の精度を中心に検討を行ない、成案を得た。以上をもつて ISO 型衝撃基準片を用いて行なう試験機の総合誤差の検査方法に関する業務を終了した。

### (2) ISO 関係

TC17 の年次報告, オーストラリア提案の鋼のカタサ値の換算について検討を行なった。

### (3) その他

今後上記分科会で取り上げるべき課題について討議したが、引続き次回検討することにした。

## 鉄鋼基礎共同研究会

凝固部会 開催日：4月7日。出席者：部司部会長，

ほか 33 名.

1. 部会長より部会の活動方針について説明があつた後、次の 3 つのグループに分れて研究テーマの説明質疑応答を行なつた.

- (1) 「鋼の凝固組織の成因に関する研究」
- (2) 「鋼の凝固と偏析の機構に関する研究」
- (3) 「鋼の凝固と伝熱に関する研究」

2. 今後の方針

47年度は部会を年 2 回、運営委員会を 3 回、それ以外にグループ別の委員会も場合によつては開催する.

.....

第19回強度と靱性部会 開催日: 4月6日. 出席者: 荒木部会長, ほか7名.

春の講演大会中に部会を開催し、下記の打合せを行なつた.

1. シンポジウムについて

6月に第3回強度と靱性部会シンポジウムを開催の予定であつたが、金属学会でも7月に類似テーマで計画しており、今回は共催の形をとり、8月に金材研で行なうこととした。なお、詳細打合せは後日とした。

2. 47年度特別研究費について

4月末に同研究費の確定申請を行なうため細部の打合せを行なつた。

### Third International Symposium on Electroslag and Other Special Melting Technology シンポジウム論文集 Part 1

1971年6月、アメリカのピッツバーグで開催された標記シンポジウムの論文集 Part I が刊行されました。

このシンポジウムは超高級鋼や高級合金を作る為のエレクトロスラグや特殊製鉄法 (Ar-O<sub>2</sub> Refining Process, Giant Size Vacuum Melting Units, Electron Beam Melting Process, Plasma Melting and Remelting Process) に関する学術技術の研究に焦点が絞られています。

Part I は Electroslag Process に関する論文が収録されており、その論文題目を紹介します。

尚、本書をご入用の方は下記に直接ご連絡下さい。

G. K. Bhat

Head, General Metallurgy and Materials Research

Mellon Institute of Carnegie-Mellon University

4400 Fifth Avenue, Pittsburgh, Pennsylvania 15213 USA

New Method of Enlargement of Ingots and Forgings on the

Basis of Electroslag Process - B. E. Paton, et al. ....USSR

The New Method of Preparing and Joining Consumable

Electrodes for Electroslag Melting - O. Madono ..... Japan

Heat Flow in the Electroslag Process - S. Joshi and A. Mitchell .....Canada

A Mathematical Model of ESR Direct Current Voltage

Characteristics - J. W. Tommaney and D. A. Kraai .....USA

Electroflux Remelting of Alloy Tool Steels - R. Schlatter.....USA

Electroslag Remelting of High-Speed Steel and Using of

That Steel in Low -Formed or Non-Formed Condition - I. Petrman .....Czechoslovakia

The Quality of Electroslag Melted Hastelloy Alloy X -

T. N. Kelley, et al. ....USA

Electroslag Remelting of Nickel Base Alloys - R. L. Cook, et al. ....USA

Production of Tool Steels by Electroslag Powder

Melting - R. C. Parsons .....USA

Load Cell Melting at Simonds Steel Division - G. W. Reese, Jr. ....USA

複写依頼は御遠り下さい。